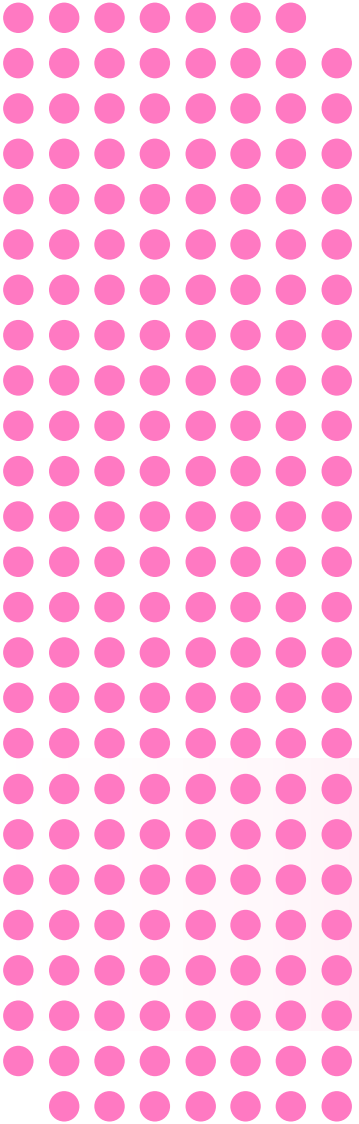




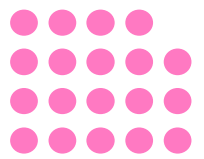
情報処理技法 (Javaプログラミング)1

第14回

ある1セットの命令をあちこちで利用するには?

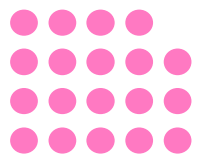
人間科学科コミュニケーション専攻

白銀 純子



第14回の内容

- メソッドの作り方・使い方

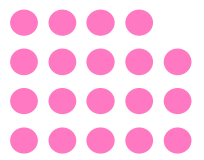


前回の復習問題の解答

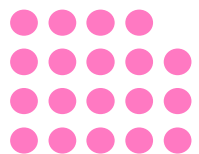
- 「例外」とは何かを説明しなさい。

解答例:

プログラム実行時に発生するエラーのこと。例外が発生することにより、プログラムの実行がその時点で終了してしまう。



メソッドの作り方・使い方



同じ内容の処理って?(p. 290)

- 高校の生徒の英, 数, 国, 理, 社の平均点を計算するとき

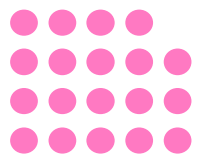
英語の平均

```
for (i = 0; i < 50; i++) {  
    englishTotal = englishTotal + english[i];  
}  
englishHeikin = englishTotal / 50;
```

数学の平均

```
for (i = 0; i < 50; i++) {  
    mathTotal = mathTotal + math[i];  
}  
mathHeikin = mathTotal / 50;
```

国語の平均, 理科の平均, 社会の平均...



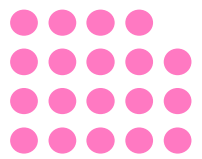
変数の名前が違うだけ?(p. 290)

- 変数の名前が違って、やっていることは同じ
 - 英語の点数の合計を求めて平均する
 - 数学の点数の合計を求めて平均する
 -
- 変数の名前が違うから、for文やwhile文は使えない
- でも、変数の名前を同じにはできない

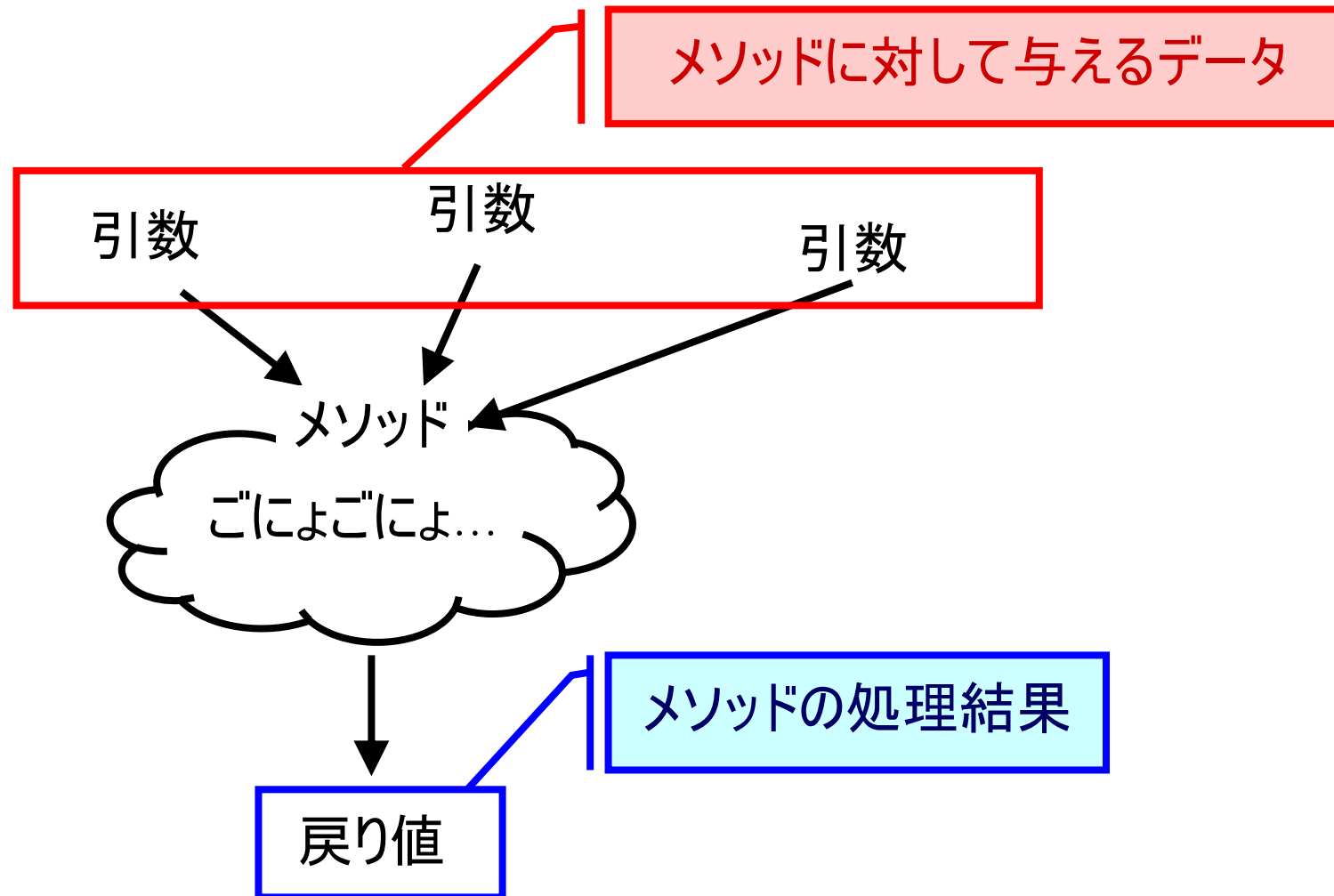


メソッド(p. 291)

- プログラム中で行われる処理の手順をまとめたもの
 - 複数の処理をまとめて、1つの名前を付けたもの
- メソッド名、引数、戻り値(返り値)という構成
 - **メソッド名**: メソッドの名前
 - **引数**: メソッドに渡す情報(計算等の処理の材料にするデータ)
 - 処理の材料にするデータのみ、引数として定義
 - **戻り値(返り値)**: メソッドの内容を実行したときの処理結果
 - 多くの場合、戻り値を変数に代入して利用する
 - 「**変数名 = メソッド**」で、変数に戻り値が代入される



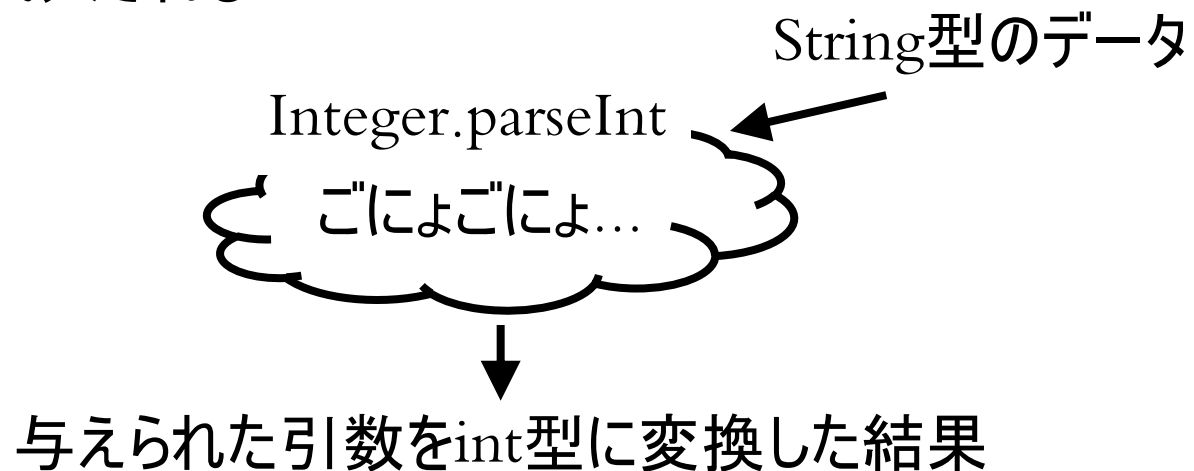
メソッドのイメージ(p. 291)



メソッド(例)(1)(p. 291)

- Integer.parseInt(str)
 - メソッド名: Integer.parseInt
 - 引数: str(String型)
 - 戻り値: 「str」をint型に変換したデータ
 - 戻り値をint型の変数に代入して利用する

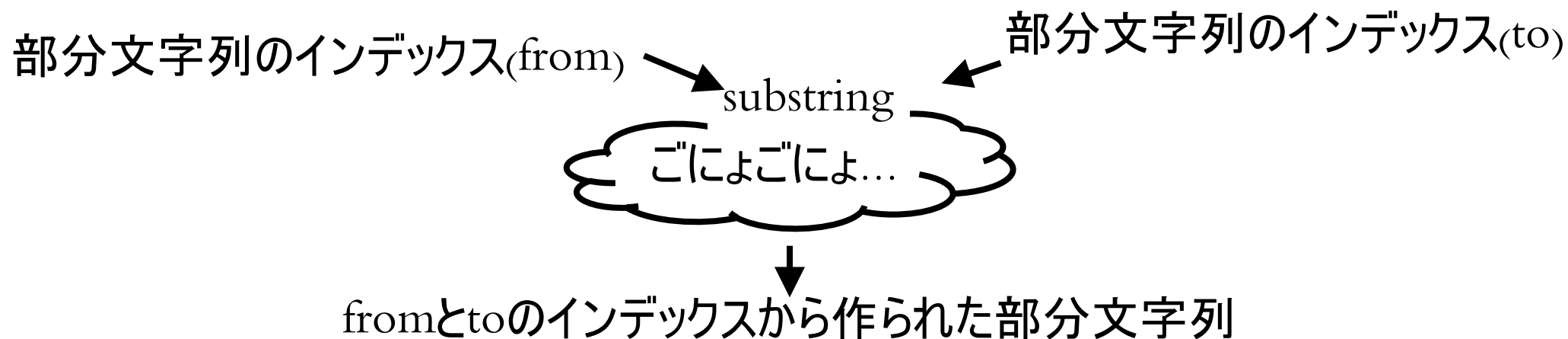
 「num = Integer.parseInt(str)」で、変数「num」に、文字列をint型のデータに変換したものが代入される

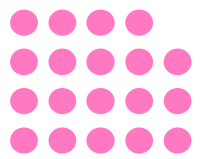


メソッド(例)(2)(p. 291)

- `str.substring(m, n)`
 - メソッド名: `substring`
 - 引数: `m(int型)` と `n(int型)`
 - 戻り値: 「`str`」の`m`番目から`n`番めまでの文字で作った部分文字列
 - 戻り値を`String`型の変数に代入して利用する

➡ 「`subStr = str.substring(m, n)`」で、変数「`subStr`」に、`str`の部分文字列が代入される



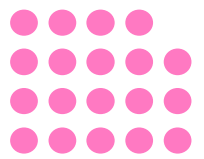


メソッドを作る(1)(p. 293)

- 今回定義するのは  ごによごによ... の部分

メソッドを作るときのお約束

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```



アクセス修飾子(p. 293)

- Javaは、様々なクラスを連携させて動作するもの
 - アクセス修飾子: クラス同士を連携させたときに、他のクラスから利用できるか否かを示すもの
 - public: 他のクラスから利用可能
←今回は、クラスは1つだけなのでpublicでOK
 - protected: 限られた範囲で、他のクラスから利用可能
 - private: 他のクラスからは利用不可

static(1)(p. 293)

- 「static」がついているメソッド(**クラスメソッド**)
 - 「クラス名.メソッド」の形式で呼び出し可能
 - static付きのメソッド内部で、同じクラスで定義されているメソッドを呼び出すときは、そのメソッドにもstaticが必要
 - mainメソッドから呼び出すときは、「static」がついている必要

Ex. Integer.parseInt(...)

- Integer: Javaで用意されているクラスの1つ
- parseInt: Integerクラスで定義されているメソッド

static(2)(p. 293)

- 「static」がついていないメソッド(インスタンスメソッド)
 - 必ず「オブジェクト名.メソッド」の形式で呼び出し
 - 「クラス名.メソッド」の形式では呼び出し不可能

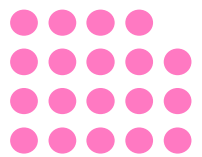
Ex. `BufferedReader br = new BufferedReader(...)`

- `BufferedReader`: Javaで用意されているクラスの1つ
- `br.readLine()`という形でメソッドを利用
 - ✓ `readLine`: `BufferedReader`クラスで定義されているメソッド

static(3)(p. 293)

- 「static」をつけるかつけないかは、「オブジェクト指向」というプログラミングの方法をきちんと勉強する必要
- 今回は、mainメソッドの中でメソッドを利用
 - mainメソッドは、クラスメソッドの一種
= static付きのメソッド

 メソッドの宣言に「static」をつける必要

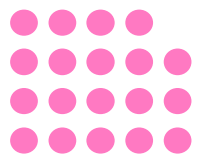


メソッドを作る(2)(p. 293)

- 今回定義するのは  ごによごによ... の部分

戻り値は1つだけ

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```



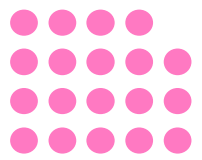
メソッドを作る(3)(p. 294)

メソッドの名前(名前の付け方は、
クラス名や変数名と同じ)

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```

Javaの命名規則としては...

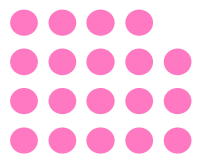
- 先頭の単語は動詞にする
- 複数の単語を連結するときは、先頭の単語はすべて小文字、2つ目以降の単語は先頭の文字のみ大文字、あとは小文字
 - ✓ 変数と同じ



メソッドを作る(4)(p. 295)

- 「引数のデータ型 引数の変数名」と書く
- 引数はいくつあっても良い(「,」で区切る)
- データ型はそれぞれ異なってもかまわない

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```



引数の定義の注意

- 引数の定義は、一見変数宣言のよう
 - 実際、メソッド内で使う変数の宣言とも言える

but...

通常の変数宣言とは違う!

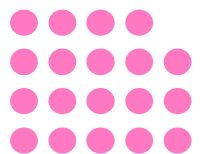
- 必ず「**データ型** **変数名**」のセットで書かなければならない



```
public int sum(int num1, int num2, int num3) {  
    int result;  
    result = num1 + num2 + num3;  
    return result;  
}
```



```
public int sum(int num1, num2, num3) {  
    int result;  
    result = num1 + num2 + num3;  
    return result;  
}
```



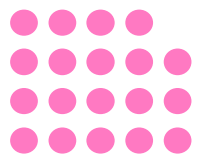
メソッドを作る(5)(p. 296)

処理内容は何を書いても良い
(if, for, while, ...)

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```

※「処理内容」の部分では、「引数」で定義した変数を通常の変数として利用できる

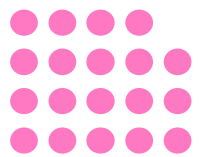
```
public int sum(int num1, int num2) {  
    int result;  
    result = num1 + num2;  
    return result;  
}
```



メソッドを作る(6)(p. 296)

- 「処理結果」を返すという意味(「変数名 = メソッド名(引数)」と書くと、「変数名」の中に処理結果が代入される)
- この文でメソッドの内容が終わる(この後には文を書かないこと)
- 処理結果のデータ型と戻り値のデータ型は同じもの

```
public static 戻り値のデータ型 メソッド名(引数) {  
    メソッドでの処理内容  
    return 処理結果;  
}
```



return文(p. 296)

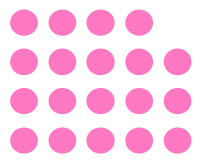
- 戻り値のデータ型とreturn文で返すデータ型は同じでなくてはならない

```
public int sum(int num1, int num2) {  
    int result;  
    result = num1 + num2;  
    return result;  
}
```

データ型が同じ○

```
public String sum(int num1, int num2) {  
    int result;  
    result = num1 + num2;  
    return result;  
}
```

違うデータ型✕



メソッドの作成例(p. 297)

処理結果を「double」型で返す

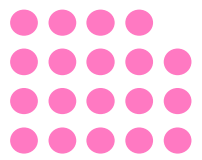
引数の定義

引数に与えられた3つの数の平均を求めるメソッド

```
public static double average(int num1, int num2, int num3) {  
    double result;  
    result = (double) (num1 + num2 + num3) / 3;  
    return result;  
}
```

処理内容

「return」で、「結果を返す」という意味
(「return」の後に書く処理結果のデータ型は、
戻り値のデータ型と同じにすること)



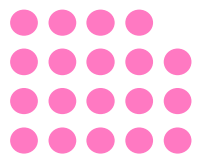
メソッドを作る場所(p. 300)

mainの上か下に作る(ど
ちらに作っても良い)

```
public class ファイル名 {
```

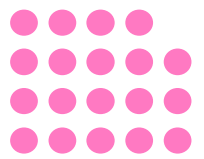
```
    public static void main(String[] args) {  
    }
```

```
}
```



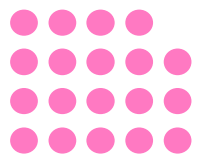
メソッドの作成例(p. 300)

```
public class Sample {  
    public static double average(int num1, int num2, int num3) {  
        double result;  
        result = (double) (num1 + num2 + num3) / 3;  
        return result;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
    }  
}
```



作ったメソッドを使う(p. 301)

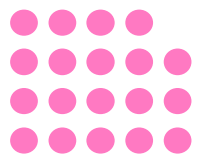
- メソッドを使う部分は、「public static void main」の中に書く
 - 「メソッド名(引数の値)」でメソッドを呼び出す



作ったメソッドを使う(例)(1) (p. 301)

メソッドの定義

```
public class Average {  
    public static double average (int num1, int num2, int num3) {  
        int sum;  
        double result;  
        sum = num1 + num2 + num3;  
        result = (double) sum / 3;  
  
        return result;  
    }  
  
    public static void main(String[] args) {  
        double result;  
        result = average(10, 20, 30);  
    }  
}
```

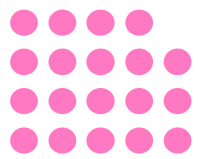


作ったメソッドを使う(例)(2)(p. 301)

```
public class Average {  
    public static double average (int num1, int num2, int num3) {  
        int sum;  
        double result;  
        sum = num1 + num2 + num3;  
        result = (double) sum / 3;  
  
        return result;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        double result;  
        result = average(10, 20, 30);  
    }  
}
```

引数には具体的な値または
変数を書く(引数の順番は、
メソッドを作ったときの順番と同じに)

averageというメソッドを呼び出す

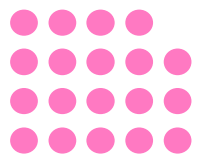


作ったメソッドを使う(例)(3)(p. 301)

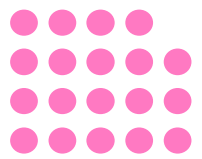
```
public class Average {  
    public static void main(String[] args) {  
        double result;  
        result = average(10, 20, 30);  
    }  
  
    public static double average(int num1, int num2, int num3) {  
        int sum;  
        double result;  
        sum = num1 + num2 + num3;  
        result = (double) sum / 3;  
  
        return result;  
    }  
}
```

処理の流れ

1. mainメソッドで、averageメソッドの引数に10, 20, 30を指定する
2. 指定された10, 20, 30というデータがaverageメソッドの引数の変数「num1」、「num2」、「num3」にそれぞれ代入される
3. averageメソッド内で引数の値を使って計算され、変数resultに結果が代入される
4. averageメソッドの変数resultの値がmainメソッドの変数resultに代入される



メソッド～引数の扱い～



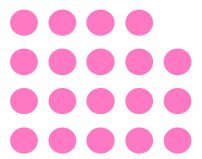
引数が配列の場合(定義)(p. 302)

- 引数の定義の部分を「**引数のデータ型** **引数の変数名**」または「**引数のデータ型** **引数の変数名**」のように書く

```
public static int add(int[] num) {  
    .....  
    return result;  
}
```

または

```
public static int add(int num[]) {  
    .....  
    return result;  
}
```

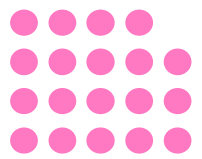


引数が配列の場合(使用)(p. 302)

- 引数の定義の部分に配列変数をそのまま入れる

```
public class Calculate {  
    public static int add(int[] num) {  
        .....  
        return result;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        int[] number = new int[100];  
        int sum;  
        sum = add(number);  
    }  
}
```

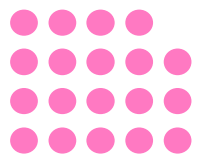
添え字なども必要なく、
配列変数の名前のみ



引数がない場合 (p. 302)

- 引数の定義の部分に何も書かず、メソッドの利用時の引数も何も書かない

```
public class Calculate {  
    public static int add() {  
        .....  
        return result;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        int sum;  
        sum = add();  
    }  
}
```



戻り値が配列の場合 (p. 302)

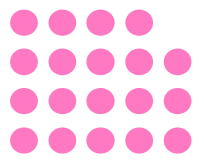
- 戻り値の定義の部分を「**戻り値のデータ型[]**」のように書く

```
public class Calculate {  
    public static int[] add(int n) {  
        int[] result = new int[100];  
        .....  
        return result;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        int[] sum;  
        int num;  
        sum = add(num);  
    }  
}
```

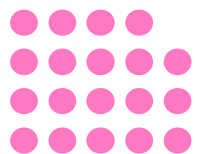
戻り値がない場合 (p. 302)

- 戻り値の定義の部分を「**void**」と書く
- メソッドの最後の「return」文も不要

```
public class Calculate {  
    public static void add(int n) {  
        .....  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        int num;  
        add(num);  
    }  
}
```



メソッド～変数の有効領域～



変数のスコープ(1)(p. 316)

- 変数は、どこで宣言したかによって使える場所が違う

➡ 宣言したブロック内ではしか使えない(変数のスコープ)

「{」に対応する「}」までの領域
(メソッドに限らず、if文やfor文の「{}」でも同じ)

```
public class Sample {
```

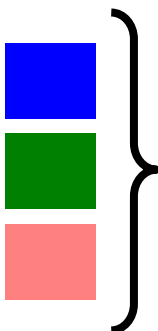
```
    public static int calculate(int num) {
```

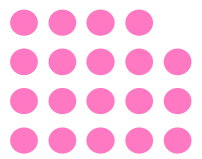
```
        // Blue block
```

```
    }  
    public static void main(String[] args) {
```

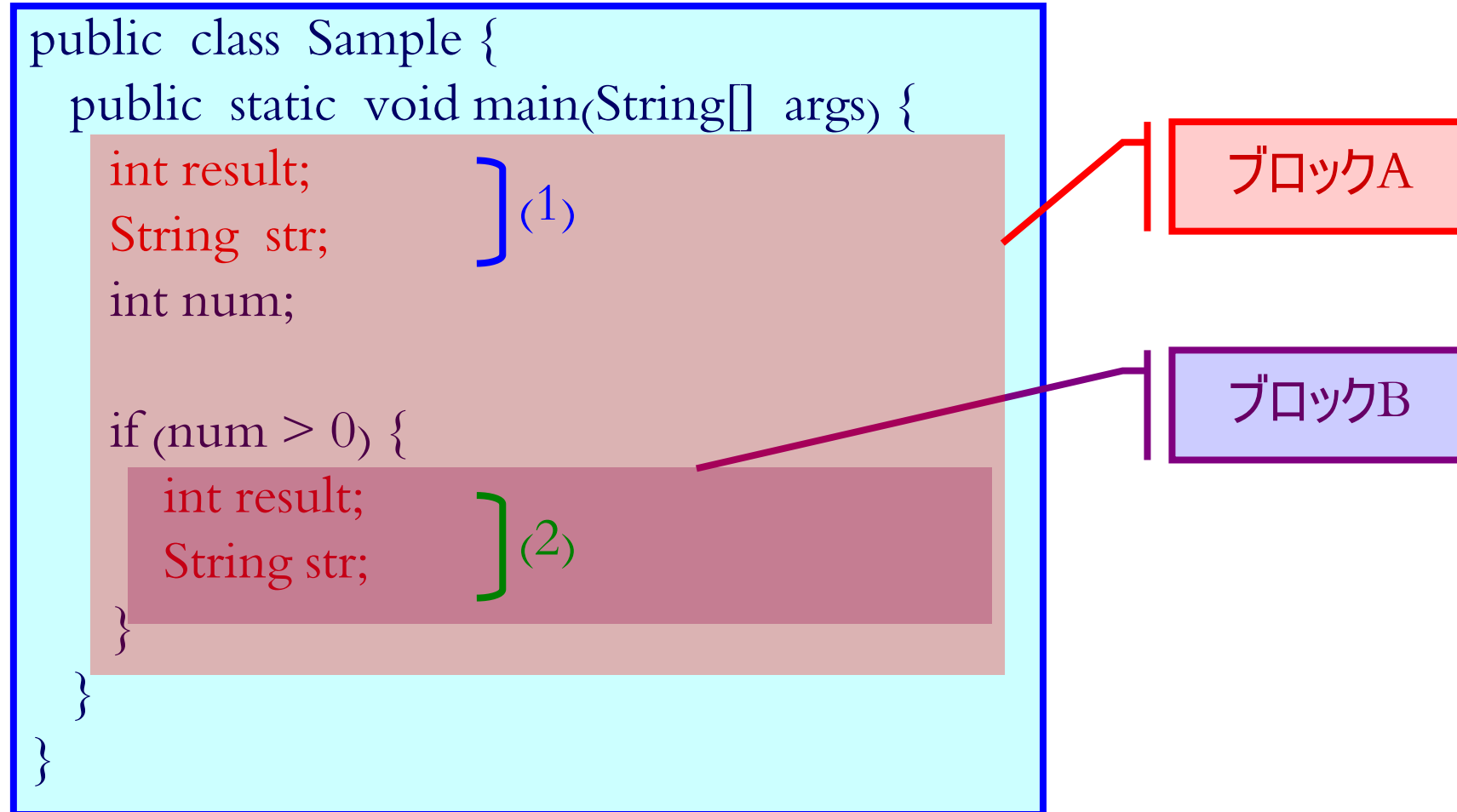
```
        // Green block
```

```
    }
```

 ブロック

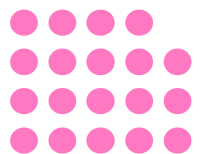


変数のスコープ(2)(p. 316)



広いブロックの変数は、そのブロックに含まれる狭いブロックでも使える

➡ (1)の変数(ブロックAの変数)はブロックBでも使えるので、
(2)の変数宣言はコンパイルエラー

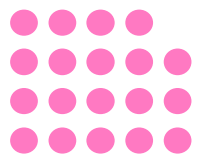


変数のスコープ(3)(p. 316)

```
public class Sample {  
    public static int calculate(int num) {  
        int result;  
        String str;  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
    }  
}
```

変数は、宣言したブロック内でしか使えない

➡ `result`, `str`は、「`public static void main...`」の中では使えない

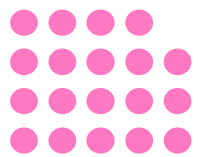


変数のスコープ(4)(p. 316)

```
public class Sample {  
    public static int calculate(int num) {  
        int result;  
        String str;    } (1)  
    }  
    public static void main(String[] args) {  
        int result;  
        String str;    } (2)  
    }  
}
```

変数は、宣言したブロック内でしか使えない

➡ (1)の変数と(2)の変数は違う変数として扱われる



第3回課題と期末試験

- 第3回課題: 授業のページから
- 期末試験
 - 7月28日(火) 2限 24102教室
 - 90分
 - 持ち込みすべて可の実技メインの試験
 - 筆記も少しあり